

### 3 天橋立の地形

天橋立はもともと陸地<sup>りくち</sup>で、宮津湾<sup>わん かいがん</sup>の海岸線<sup>かいがん</sup>は、はるか沖合<sup>おきあい</sup>にありました。今から約6～8千年前<sup>やく</sup>の縄文時代<sup>じょうもん</sup>（図1）になると、現在の天橋立<sup>げんざい</sup>にそって海面下<sup>かいめんか</sup>に徐々に<sup>じょじょ</sup>形づくられ、今から約2千年前に現在に近い地形になったといわれています。日置の世屋川<sup>ひおき せや</sup>や畑川<sup>はたがわ</sup>をはじめとする多くの川から流れ出た砂<sup>すな</sup>が宮津湾に流れこんだ後、海岸線にそって流され、野田川<sup>のたがわ</sup>が流れこむ阿蘇海<sup>あそ</sup>の海流とぶつかり、府中<sup>ふちゅう</sup>から文珠<sup>もんじゆ</sup>方面にほぼまっすぐに砂<sup>すな</sup>を堆積<sup>たいせき</sup>してできたとてもめずらしい地形です。（図2）。

現在の天橋立は、長さが約3.6キロメートルで「大天橋<sup>だいてんきょう</sup>」と「小天橋<sup>しょうてんきょう</sup>」の砂浜<sup>すなはま</sup>と「第二小天橋<sup>だいにしゅう</sup>」からなり、5千本以上の黒松<sup>くろまつ</sup>がっつらなって、船が通るたびに回転する橋<sup>かいせんきょう</sup>（廻旋橋）のめずらしさとともに、四季<sup>しき</sup>をとおして多くの観光客<sup>かんこう</sup>の目を楽しませます。



図1 砂州の形成時代（縄文時代）



図2 砂州の完成時代（平安時代）

#### 調べてみよう

- ・砂州<sup>さす</sup>はどのように変化<sup>へんか</sup>してきたのでしょうか。